

# 地質調査業務委託特記仕様書

## 1 業務委託概要

- (1) 業務委託名称 西脇南中学校区統合小学校基本設計・実施設計等業務委託
- (2) 業務委託場所 西脇市野村町
- (3) 建設施設概要
  - ア 主要用途 学校施設
  - イ 敷地面積 40,954㎡
  - ウ 構造等 RC造、S造 3階建て（基本設計着手前の想定）
  - エ 延べ面積 約 7,900㎡
    - (7) 校舎 約 6,300㎡
    - (4) 屋内運動場 約 1,300㎡
    - (9) その他附属建物 約300㎡
  - オ 用途地域 第1種中高層住居専用地域（建ぺい率60%、容積率 150%）
  - カ 防火地域 法22条区域

## 2 履行期間

契約締結の日から令和10年3月24日まで

## 3 業務の目的

当該敷地の地盤構成を探り、土の物理・力学的性状を明らかにするとともに、地盤の強度、安定性、沈下特性、動的性質などを検討し、西脇南中学校区統合小学校の設計・施工に必要な資料を得ることを目的とする。

## 4 業務内容

### (1) 一般事項

- ア 調査・試験は、関連JIS規格、地盤工学会の各種基準及び「土質調査法」・「土質試験法」（地盤工学会）に準拠する。
- イ 調査・試験は、専門業者の責任施工を原則とする。
- ウ 調査に当たっては既存物等の保護に留意し、損害を与えた場合は、受託者の責任において補償すること。また、作業完了後は直ちに仮設物、機器等を除去し、跡片付け及び清掃の上、敷地を原型に復すこと。
- エ 各原位置試験においては、初期の目的どおりに掘進が完了した時点で、発注者に中間報告を行うことを原則とする。
- オ 調査・試験の途中で、次に示すような事態が生じた場合には、速やかに発注者に報告し、その指示を受けること。
  - (7) 地盤が想定と著しく異なったり、現場諸条件の特異性があつたりすることによ

り、掘進等が困難となった場合

- (4) 予定深度に達しても、数メートルにわたり想定支持地盤が確認できない場合又は予定深度に達していないが、数メートル以上にわたる想定支持地盤が確認できた場合
- (5) 近接2地点での調査・試験結果が、著しく異なる場合
- (6) その他、目的が達成できないと判断した場合

(2) 計画変更

- ア 敷地の状況、調査結果等により、本仕様書による計画数量や位置等を一部変更することがある。
- イ その他、不足の事態による変更等は、その都度協議を行う。

(3) 立会・検査

次に示す段階での現場立会・検査を行うため、受託者は速やかにその日時を連絡すること。ただし、写真検査等により、現場立会を省略することがある。

- ア 調査位置、ベンチマーク等の確認
- イ ボーリング完了後の検尺
- ウ 各種原位置試験

(4) 安全管理

- ア 受託者は主任技術者を定め、現場に常駐させて業務の円滑化を図るとともに、緊急時の連絡体制を明確にしておくこと。
- イ 現場調査期間中は、第三者の不足の進入を防ぐため、安全対策を十分行うこと。
- ウ 掘削孔は作業完了後、直ちにモルタル等を注入して閉塞すること。
- エ 現場作業員は、常に身分証明書を携帯し、必要があれば明示すること。
- オ その他、随時発注者の指示に従うこと。

(5) 各種調査・試験

ア 調査ボーリング

工法はロータリー式ボーリング（孔径66mm以上）とする。ただし、シンウォールサンプラーを使用する場合は、孔径86mm（二重管式サンプラーの場合は 116mm）以上とする。

また全調査地点について、ボーリング孔内の自由水位（孔内水位）を測定する。（孔内水位の確認は、自由水位面までの空掘りを原則とする。）

調査及び試験完了後のボーリング孔で、地下工事のあるもの、又は被圧地下水のある場所、その他必要と認められるものには、セメンテーション等による遮水を完全に行うこと。なお、支持層の深度、層厚によっては、調査深度の変更を行うことがある。

イ 標準貫入試験（JIS A 1219）

打撃階数（N値）の最大値は60とし、1 mごとに測定する。ただし、不攪乱試料を採取する箇所では、その位置での測定を省略してもよい。

採取した試料は、色、臭い、粒度、硬さ、締まり具合、湿潤状態、混入物等の土質概要と、採取深度及び試料の長さ等を記録する。

(6) 調査内容一覧

内容	単位	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	計	備考
調査ボーリング	m	20	20	20	20	20	100	
標準貫入試験	回	20	20	20	20	20	100	

- (7) 調査ボーリング位置  
協議により決定する。

## 5 成果品等

### (1) 着手前

- ア 主任技術者通知書及び経歴書届
- イ 業務計画書
- ウ その他必要なもの一式

### (2) 完了時

- ア 調査報告書 電子データ 1 式、製本 2 部

報告書の用紙は、地盤工学会制定のシートを用いることを原則とする。また、報告書は次の項目を参考として適宜整理してよいが、提出前に設計者と記載内容について協議及び確認を行うこと。

- (7) 調査の概要及び調査項目一覧表
- (イ) 調査位置見取図（指示のある場合、敷地中心の緯度、経度を 0.1分単位で記入）
- (ロ) 敷地内ボーリング位置図（BM、標高、調査深度等を記入）
- (ハ) 現地周辺の古地図
- (ニ) 地形、地盤の概要と地下水について
- (ホ) 土質柱状図及び土性図
- (ヘ) 地質想定断面図（彩色）
- (ヘ) 各種試験及び測定結果（一覧表とデータシート）
- (ヘ) 調査及び測定結果に対する検討と考察
  - a 各種試験結果について
  - b 建物の支持層の選定と支持力、沈下量の算定について
  - c 土質工学的問題（盛土や斜面の安定、掘削と排水等）について
  - d 地盤の動的特性（液状化の判定、地震危険度、地震入力レベルの想定等）について
  - e その他
- (ロ) 現場状況写真（カラー、各調査位置及びBM）

- イ 土質標本試料

原則として、各調査地点の地層の変わるごとに試料採取を行い、1 試料ごとにプラスチック容器詰めの上、採取深度、土質名を記入して標本箱納め（当該ボーリング孔の土質柱状図 を添付）とする。

なお、標本箱は提出の指示があるまで、受託者にて保管のこと。

- ウ その他必要なもの一式